青森が育んだ 道を 開いた女性た

男女共同参画という言葉の欠片すらなかった時代に、「女性とはこうあるべき」を打ち破り様々 なことを成し遂げた青森県出身の女性たちがいます。2023年に誕生150年を迎えた日本初の女 ・羽仁もと子(八戸市出身) や、ブルースの女王と呼ばれ、戦時下の弾圧にも屈し なかった歌手・淡谷のり子(青森市出身)・・・。 逆境の中、信念を貫いた彼女たちの生き方か

を受けたりもしましたが、

ついに報知新聞社に入社。校正係

県や岩手県で教鞭をとり結婚します

章を書く仕事がしたい」と新聞社に応

離婚をきっかけに再び上京。「文

雑誌『家庭之友』(現・婦人之友)

生社会について学ぶカリキュラムが組 社会の現状を知り多様性を重んじる共 教育会議で講演を行いました。

現在も

はフランス・ニースで開かれた世界新

法は世界でも注目を浴び、

59歳の時に

づき生徒の自治を重んじるこの教育方

(現在は共学)。キ

リスト教精神に基

力原理」 まれるなど、

の思想は今も受け継がれてい

彼女の「人格平等」

1903年に夫・吉一とともに女性

女性であるというだけで門前払い

学校がなかったため1

889年、

気あふれる子どもでした。 青森県内に 優秀で文部省から表彰を受けるなど才

女性が高等教育を受けられる

まれたもと子は、

小学生の頃から成績

(明治6) 年、

八戸市に生

とともに上京し府立第一高女2年に編

さらに明治女学校を卒業し、

青森



誕生です。 日本で初めての女性ジャー 1年、職場で知り合った羽仁

ら、現代の私たちは何を学ぶことができるでしょうか。

吉一と再婚。 当時では珍しい共稼ぎ夫

> です。 唱婦随の家庭ではなく、 退職し家庭に入りますが、 婦でありました。そのうちに新聞社を 全く対等。 在り方として当たり前であった「夫が い、伸ばしていくというものだったの 互いの短所や長所を埋め合 妻がそれに従う」という夫 夫婦の関係は 当時の家の

創刊。 呼びました。 実現したもの。家事整理、主婦の時間 良いものにしたいと願う二人の思いが この『家庭之友』は日本の家庭をより な家庭問題の原因になっていました。 的な結婚が、 新しい題材を取り上げたことが反響を 料理、育児など当時としては全く 当時の社会では昔ながらの封建 夫婦や親子をめぐる深刻

が社内で認められ記者となりました。

ナリストの

からスター

トし、自発的に書いた記事

女性の力を豊かな社会の建設に向ける ことを訴え続けました。 立った生活を広め、 ぬ様式で婦人之友社から出版されて のはもと子とされ、 に初めて「予算」 904年には家計簿を刊行。 もと子は予定と予算で筋道の の概念を持ち込んだ 家庭経営で培っ 現在もほぼ変わら

淡谷 0 り子

稀代のシャンソン歌手 戦争に負けぬ歌声

は日本で初めてジャズを歌った 歌に生きた淡谷のり子。一説に 市の呉服屋の娘として裕福に生 様々なジャンルの西洋音 (明治40) 年、青森 大火による実家の した。 雇などの憂き目にあっても、 を貫き続け、 勢を曲げることはありませんで レコード会社からの一方的な解 いく中で「歌手・淡谷のり子」 てました」。戦争一色に染まって いよいよ濃く口紅を塗りた その抑圧が高まれば高まる ますます細く長く眉をひ レコー ドの発禁

没落など波瀾万丈な人生の中

まれながら、

楽のカバ とも。

ー曲を歌いこなし、

号となりました。学生時代、

本におけるシャンソン歌手第

計を支えるためにヌードモデル

晩年はテレビのバラエティ

気を博しました。生涯現役、 せることはありません。 と生き様は、令和の世でも色褪 それを問いかけるのり子の言葉 あなたの「今」をどう生きるか とがあれば道は必ず開ける」。 たとえどんなに過重なハンディ 歳を過ぎてもドレスを着てハイ 組での歯に衣着せぬ物言いが があっても、本当にやりたいこ 色々な面で残っている。しか たくさんの言葉を残しています。 けた彼女は、同じ女性に向けて ヒールを履きステージに立ち続 「女性であることのハンディは

●のり子が半生を自分の言葉で

名です。

「化粧は私の戦闘準備の

贅沢なんかじゃありません」「私

のを拒み憲兵に目をつけられた

破天荒なエピソードは有

をしたり、

戦時中モンペを履く

郡場 ふ

物採集 皇太子に講義も 息子に請われ八甲田の植

和天皇) 任し、 高め、 究機関へと送り、 最果てである八甲田の植生が日 標本をもとに御前講義を行いま ちにふみ自身も植物学の知見を 初めは息子に言われるがまま始 に多大な影響を及ぼしました。 設などに尽力。 前大学学長を務め、農学部の創 郡場寛は京都大学学長などを歴 めた採集ですが、 めに八甲田の貴重な植物を採 ヶ湯温泉の基礎を築きました。 身)の母で、夫・直世と共に酸 植物学者・郡場寛(弘前市出 大正・昭和期に功績を残した 標本にして各地の大学や研 62歳の時でした。本州の 当時の皇太子(のちの昭 青森県出身者で初めて弘 が青森県を訪れた際、 ふみは息子のた 続けているう 植物学の進歩

時代の流れにうまく乗りながら世の女性 の暮らしを変え、男女共に支え合う社会 を提唱し続けた女性。逆境の中、確固た る意志で自分らしい生き方を貫いた女 性。きっかけはサポートする立場だとし ても、やりたいことを続け、のちに名誉 ある功績を残した女性。

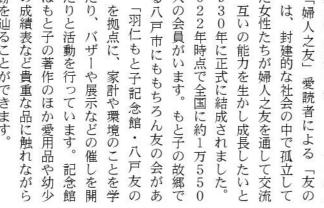
生き方は違ってもそれぞれの場面で自分 らしく活躍した彼女たちの生き方が、現 代の私たちに求められている多様性社会 への大きなメッセージとして伝わってく るようです。

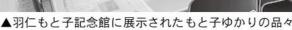
ある八戸市にももちろん友の会があ 0人の会員がいます。 2022年時点で全国に約1万55 1930年に正式に結成されました。 ●友の会 故郷に息づくもと子の教え ・た女性たちが婦人之友を通して交流 「婦人之友」愛読者による 互いの能力を生かし成長したいと 封建的な社会の中で孤立して もと子の故郷で 「友の

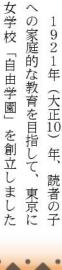
足跡を辿ることができます。 期の成績表など貴重な品に触れながら んだり、 家」を拠点に、 ではもと子の著作のほか愛用品や幼少 いたりと活動を行っています。 「羽仁もと子記念館・八戸友の 家計や環境のことを学 や展示などの催しを開











して、

への家庭的な教育を目指

921年 (大正10) 年、

(取材:石岡 沙野)

することの大切さを教えてくれ

何歳からでも始めること、 女の功績が大きいとされます。 本で早くから注目されたのは彼